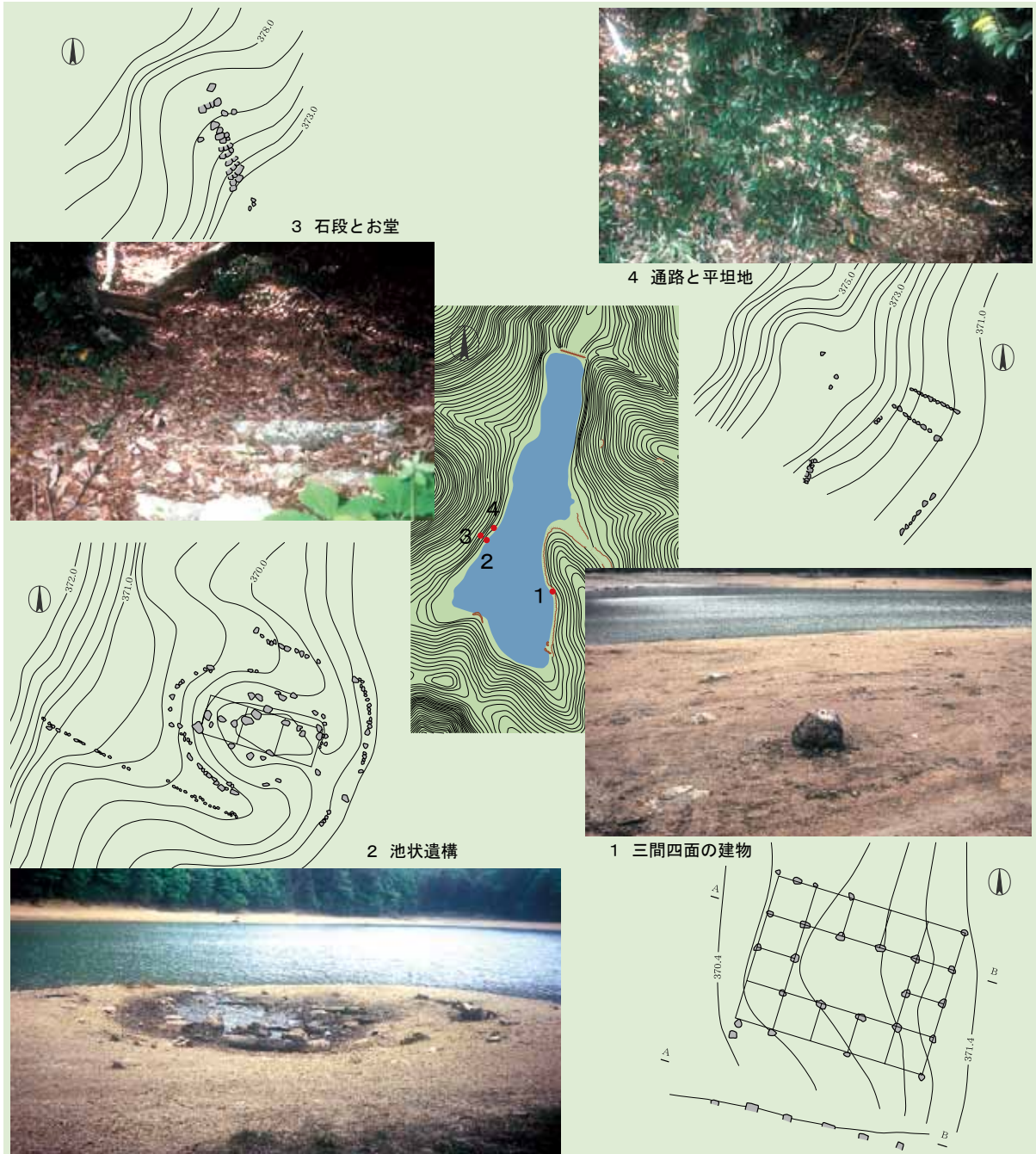


沢ノ池畔の建物跡

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



沢ノ池畔の遺構図と現地の写真 地図の縮尺 1 : 10,000 遺構図の縮尺 1 : 500

はじめに 沢ノ池は従来より先土器時代の石器や平安時代の遺物の散布地として知られていました。今回、そこで確認された建物跡や池状遺構などについて紹介します。

立地 この池は平安京の北西方向にあたり、御室仁和寺から約4kmに位置し、標高約500mの沢山の西側谷部分にあります。池の南にある稜線からは平安京の北西部を

見渡せ、また古くから丹波への交通ルートに近いところにあります。

池は標高370m付近にあり、南北約500m、東西約50~100mで南北に長い形状をしています。



沢ノ池を北から望む



池の南東部で採集した軒平瓦 拓本(1:4)

1 三間四面の建物 池の南東部には三間四面の礎石建物があります。柱間は身舎が桁行3.0m、梁間2.7mを測ります。礎石は0.7m前後のもので、石材はチャートです。ここでは平安時代前期の軒平瓦も採集されていますので、建物は一部に瓦を葺いていたものと思われる。この遺構の規模からすると中心的な建物と思われる。

2 池状遺構 池の南西方向には長径12m、短径8mの楕円形に近い池状遺構があります。深さは0.3m以上はあると思われる。池状遺構の汀は人頭大の石で護岸されています。汀付近には礎石状の0.4m大の石があり、柱間3.0mで2間もしくは3間×1間の簡素な建物が想定されます。遺構の山側肩部から湧水があり、あふれた水は沢ノ池に流れ出ています。池状遺構の周囲は平坦地をなしており、その外側にも石列があり、西側の山の斜面下近くまで延びています。この遺構は、飲料とともに浄水を

供したりするあかい闕伽井と、そのおおい覆屋とも考えられます。

3 石段とお堂 池状遺構の西斜面に取りつく形で石段があります。石段は0.3m大の石材を使用し、10段あり、平坦地との高低差は約4.0mあります。石段を上がると5.5m×3.0m規模の平坦地があります。また、基壇の一部かと思われる石が4個列をなしています。斜面の崩壊による堆積で、礎石などは確認できていません。平坦地は狭いのですが、一間四方規模のお堂の施設が想定されます。

4 通路と平坦地 石段から約20m北上すると、西側斜面に取りつく通路があります。通路の幅は2.9mで、上に登るにしたがって狭くなっています。両端には、拳大の石を配して石列をなしています。通路の上には、東西10m、南北13m規模の平坦地があり、礎石の可能性のある石を3個確認しました。平坦地の池側には、部分的に石垣が残っています。



採集した土器片

まとめ これらの遺構の付近からは、須恵器や緑釉陶器、白磁、瓦片などが採集されています。遺物の年代は、平安時代前期のものと、平安時代後期から鎌倉時代前期のもので、江戸時代の瓦もあります。遺構は平安時代から造られていたものと思われる。

これらについては、小規模で別業的な性格のものか、あるいは、仁和寺の子院に関連する施設なのか、さらには俗世を嫌う僧侶・貴族の遁世の地、修業を兼ねた「山寺」など、今のところ結論には至っていません。いずれにしても、山中にこのような施設があるということは興味深いことです。

(津々池 惣一)



沢ノ池とその周辺